

禁煙外来

健康に悪いと分かっているタバコを止められない、何度も禁煙に失敗する方が多いのはなぜでしょう。タバコに含まれるニコチンは、覚醒剤の数倍強い常習性があるそうです。「タバコを習慣的に吸っている人は、自らの意志ではなく、タバコに吸わされているのだ。」と言う医師もいます。習慣的な喫煙は、「ニコチン依存症」という病気のようです。いわき市内でも禁煙外来を行っている医療機関が多数あり、条件を満たす方は医療保険が適用されます。かしま病院でも「禁煙外来」を行っていますので、興味のある方は左記にお問い合わせください。

かしま病院 健診センター

TEL 0246-58-8090
(10時~17時) 完全予約制

禁煙キャンペーン



かしま病院では、3月23日(木)に、受動喫煙対策に関する署名活動を行いました。多数の皆様に関心を持っていただき、多くの署名を頂くことができました。ありがとうございます。

かしま病院、クリニックかしまは、駐車場も含めて全敷地内禁煙です。ご来院の方は、敷地内禁煙にご協力ください。



喫煙は、自分自身だけでなく、家族や周りの人達のがんを初め様々な病気のリスクを高めています。自分や家族、周りの人達のかけがえのない命をかけてでも、タバコを吸い続けませんか？

参考文献：厚生労働省 e-ヘルスネット、国立がん研究センター がん情報サービス

2017年度 糖尿病教室のお知らせ

当院では、みなさまが糖尿病とうまくお付き合いし楽しく生活できるように、「糖尿病サポートチーム」のスタッフがお手伝いをさせていただいております。血糖値について理解を深め、生活習慣を見直すきっかけにはいかがでしょうか？

日常のちょっとした工夫と心がけで、糖尿病をお持ちの方でも充実した生活が送れます。

- 糖尿病が気になる方
- ご家族の健康に不安をお持ちの方
- 血糖値が下がらない方

どなたでも自由に参加できますので、お気軽にお越しください。

場所 クリニックかしま会議室
日時 毎月第1火曜日 10:00~10:30

今後の予定

- 5月2日 『みんなで話そう糖尿病自慢』
体験談を参考にしてみませんか？
- 6月6日 『お薬のはなし』
- 7月4日 『食事と栄養』
- 8月1日 『検査について』



少年雑誌の苦い思い出

少年時代、朝寝坊だった。母に呼び起こされないと目が覚めず、しかも一回では起きられず、母に口答えをする、始末に負えない坊主だった。

友達の山口守君が早起きして新聞配達をしていることを知り驚嘆した。月々の小遣いなど貰ったことはなかった。定期収入のある同級生がうらやましく、一念発起して自分も新聞配達をしてみよう、と思ったのが小学六年生の時。



ひんがら目(118)

まずは、薄明かりを駆け抜けて戸口の隙間に新聞を挟む山口君の後を追った。よくも間違えないで、しかも抜かりなく一軒一軒に配達が出来たものだ。その記憶力に感心した。小学生といえどもプロ意識が身につけている。翌日には、山口君の指示で数軒の家に新聞を配った。三日目にはさらに配達の家を増やしたが、徐々に不安が湧いてきた。これは誰の仕事だろう。山口君のお手伝いなのだろうか、あるいは、山口君の仕事を奪っているのだろうか。そうかと言って、一人で配達をする自信はなかった。三日坊主の習癖も災いし、結局一週間で新聞配達は止めた。人の良い山口君は一週間の手伝いのお礼に少年雑誌をプレゼントしてくれた。小学館の教育雑誌である「小学六年生」を父は定期購読して呉れていたが、漫画満載の少年雑誌は初めてであったので、手にしたときには嬉しさがこみ上げ

少年雑誌の蜜を知ったら、翌月号も欲しくなった。しかし、もう新聞配達はしてない。当時、母は買い物スタンプを集めていた。スタンプを台紙に貼り一定の枚数になると商品券とみなされた。母がスタンプ帳を台所の引き出しに貯めていたのを知っていたので、つい手が出てしまい、近所の書店へ赴き翌月号に換えてもらった。うきうき嬉しかった。母が引き出しのスタンプ帳が減っていることに気づいた、という事に気づいたら、自責の念に沈んだ。母は何も言わなかった。自首しようかと思ったが出来なかった。隠したままであったが、二度とこんな思いはしたくないと後悔した。今にして思うと、我慢強い母であった。

二ヶ月経って、友達の福田君から愚生と山口守君に、欲しいものを買ってあげるよと声を掛けられた。ならば、少年雑誌が欲しいと答えたところ、福田君に谷口英文堂という書店へ連れられ目当ての雑誌をプレゼントされた。今回は、やましいことはしなかったので晴れ晴れしかった。半月過ぎた頃に、小学校の職員室の黒板の隅に「山根、山口」と板書されているのを目撃した。何のことだろう、と不思議だったが意味が解らなかつた。その後、母は学校に呼び出しを喰らった。後でわかったことだが、福田君が自宅のお金をネコババしたことがばれ、そのお金の使途を追求されたときに、「山根君と山口君に雑誌を買わされた」と目供したらしい。学校に呼び出しを喰らった二人の母は、子どもたちの潔白を主張したらしい。もちろん潔白だが、潔白という証拠はない。脅迫したと言われても否定できる証拠はなかった。しかし、二人の母は子どもを信じて守ってくれた。二人の母は、福田君の親から何度が賠償を求められたが頑として拒否した。数ヶ月してその問題は風化した。タダより高いものはないと痛感した。

昔の母は偉かった。今なら、いじめ、ゆすり、と、断罪されただろう。

(呼吸器科部長 山根喜男)

